

令和元年度作成（令和4年度改訂）

「水害からいのちを守るために」

学習指導・発問計画

（ 鈴鹿市・鈴鹿川版 ）

「水害からいのちを守るために」学習指導計画

目 次

1. はじめに	1
2. 指導計画	2
3. 発問計画・学習教材（4時限の場合）	4
1 時限目「わたしたちの鈴鹿川」	4
2 時限目「水害時におこる危険」	5
3 時限目「水害時にわたしたちがとるべき行動」	6
4 時限目「みんなでとりくむ水害へのそなえ」	8
4. 発問計画・学習教材（3時限の場合）	10
1 時限目「わたしたちの鈴鹿川」「水害時におこる危険」	10
2 時限目「水害時にわたしたちがとるべき行動」	12
3 時限目「みんなでとりくむ水害へのそなえ」	14
5. 発問計画・学習教材（2時限の場合）	16
1 時限目「わたしたちの鈴鹿川」「水害時におこる危険」	16
2 時限目「水害時にわたしたちがとるべき行動」	18

1 はじめに

洪水氾濫による災害は、平成 27 年 9 月関東・東北豪雨災害による鬼怒川の堤防決壊における多数の孤立者の発生や、今般の平成 30 年 7 月豪雨災害などにおいて多数の死者が出るなど甚大な被害の発生を踏まえると、「**施設の能力には限界があり、施設では防ぎきれない大洪水は必ず発生するもの**」との認識を持つ必要があります。

そこで、本学習教材（素案）は、**児童自身が「自分の命を守るためにできること」を自ら考える**ことを主眼において構成しています。学校や周辺地域が想定される浸水地域外である場合は、児童が将来引っ越しした場合や、他の地域に遊びに行った際に水害を経験することを想定して授業を進めてください。

具体には、1 章目、2 章目にて、周辺知識として「**身近な川の特徴や歴史**」や「**身近な川で起こった水害**」について学び、川はわたしたちに恵みを与える一方、大雨時には身近な場所が危険な状態に変化することを知ります。メインの 3 章目では「**水害時にとるべき行動**」について順を追って自ら考え、そのあとにハザードマップを使用して「**身の回りの危険を確認する**」構成としています。最後の 4 章目は、水害を起こさないために、様々な人が関わりあって水害に対する備えをしており、私たちは「**自分のいのちを守るために行動する**」ことが重要であることを学ぶ構成としています。

本学習教材の構成

項目	ねらい
1章 わたしたちの鈴鹿川	
1) 鈴鹿川の特ちょう	授業の導入として、鈴鹿川の流れを知る
2) 地形の特ちょう	鈴鹿川がつくった特徴的な地形や環境を知る 鈴鹿川の恵みを知る
3) 川の歴史	鈴鹿川と流域の人々との関わりを知る
2章 水害時におこる危険	
1) 伊勢湾台風	導入として伊勢湾台風による被害を知る
2) 水害時におこる危険	水害時におこる危険について 身近な場所の被害状況を参考に「わがごと」として考える
3章 水害時にわたしたちがとるべき行動	
1) 水害により身に危険があるとき	水害時の周囲の状況と、とるべき行動について考える
2) 知っておくべきこと	鈴鹿市のハザードマップを使って、学校や自宅まわりにひそむ危険を「自ら考える」
4章 みんなでとりくむ水害へのそなえ	
1) 水害で困らない工夫	普段から「川は管理されている」ことを学ぶ。 また、さまざまな機関(国土交通省、気象庁、市役所・町役場、メディア等)と市民が関わりあっていることを知る。
2) 地域の人、家族との助け合い	大雨のときは、地域の人や家族と助け合って早めに避難するなど、「自分の命を守る行動」をとることができるようにする。

周辺知識①
身近な川の特徴
・
川の恵み

周辺知識②
水害時の危険を
「わがごと」として考える

「自分の命を守るためにできること」
を考える

2 指導計画

【 目標 】

【水害について学ぶための目標】

- 「自分の命を守るためにできること」を考える。

【 学習教材の活用方法 】

理科・社会における通常授業で、身近な川（鈴鹿川）における水害とわたしたちがとるべき行動を学ぶための教材として活用できます。4時限構成としていますが、時間を確保できない場合は、教科書内容の補足として各時限の資料を活用してください。

各時限で「考えてみよう」のコーナーを設けているので、児童に考えさせながら授業を進めてください。特に2・3時限目は、水害による危険性を考えることで、自らの取るべき行動を考える構成としています。「考える」防災教育を取り入れるためにもご活用ください。

<授業構成の例>

	4 時限構成の場合	3 時限構成の場合	2 時限構成の場合
1 章 わたしたちの鈴鹿川	鈴鹿川の 恵み を主に学ぶ	鈴鹿川の 恵み を学んだ上で、水害がおこった場合の 危険 を「わがごと」として 考える	鈴鹿川の 恵み を学んだ上で、水害がおこった場合の 危険 を「わがごと」として 考える
2 章 水害時におこる危険	水害時におこる 危険 を「わがごと」として 考える		
3 章 水害時にわたしたちがとるべき行動	水害時にとるべき 行動 を 考える	水害時にとるべき 行動 を 考える	水害時にとるべき 行動 を 考える
4 章 みんなでとりくむ水害へのそなえ	水害への様々な 備え を学んだ上で、「わたしたちにできること」を 考える	水害への様々な 備え を学んだ上で、「わたしたちにできること」を 考える	無し

〈めあてと学習ポイント〉

1 時限目
めあて：川の良いところと危険なところを知ろう
学習ポイント <input type="checkbox"/> 多様な流れのおかげで、生き物のすみかや人々の河川利用があることを学ぶ。【p. 1-4】 <input type="checkbox"/> 一方で、大雨が降ると危険な状態になることを知る。【p. 5-6】
1 わたしたちの鈴鹿川 (1) 鈴鹿川の特ちょう (2) 地形の特ちょう (3) 川の歴史
2 時限目
めあて：水害が起きた時に、身の回りでどのような危険があるのか考えよう
学習ポイント <input type="checkbox"/> 身近な川でも水害が起こるかもしれないことを知る。【p. 7-19】 <input type="checkbox"/> 大雨で川が氾濫すると、身の回りにどのような危険が生じるか考える。【p. 7-19】
2 水害時におこる危険 (1) 伊勢湾台風 (2) 水害時におこる危険
3 時限目
めあて：水害が起きた時に、わたしたちがとるべき行動を考えよう
学習ポイント <input type="checkbox"/> 水害時にわたしたちがとるべき行動を考える。【p. 20-22】 <input type="checkbox"/> 身の回りの危険をハザードマップから読み取る。【p. 23-26】
3 水害時にわたしたちがとるべき行動 (1) 水害により身に危険があるとき (2) 知っておくべきこと
4 時限目
めあて：被害を少なくするための「そなえ」を知ろう
学習ポイント <input type="checkbox"/> 水害で困らないためのさまざまな取り組みがあることを知る。【p. 27-29】 <input type="checkbox"/> わたしたちにできることを「地域」「家族」の観点で振り返る。【p. 30-31】
4 みんなでとりくむ水害へのそなえ (1) 水害で困らない工夫 (2) 地域の人、家族との助け合い

- ✓ 「めあて」は板書でご活用ください。
- ✓ 各ページの活用方法は、「水害からいのちを守るために（教員用）」に記載しています。

3

発問計画・学習教材

1 時限目 わたしたちの鈴鹿川

本時のねらい（目標）

児童たちの近くにある川が、さまざまに利用されていることを学ぶとともに、2時限目につながるよう、川には危険なときもあることを川の歴史を通して知る。

※指導計画の「 」は、予想される児童の発言（児童に伝えたい発言）を示す。

流れ	指導計画	指導上のポイント	コラム（もっと知ろう）
導入 (5分)	<p>1. P1・P2の地図を見て、自分たちのまちに流れる川のことを考えてもらう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>発問：【P2 考えてみよう】 みなさんは、川に遊びに行ったことはありますか？わたしたちのまちには、どのような川が流れているのでしょうか。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0; color: blue;"> <p>・釣り、お花見、バルーンフェスティバル 等</p> </div>	<p>・身近な川の流れを想像させる。</p>	
展開 (30分)	<p>2. P1・P2の地図を用いて、高畑山から伊勢湾までの水の流れを確認するとともに、P3・P4の写真を用いて、地形の特徴や川の利用について学ぶ。 (導入部分の答えを解説する。)</p> <p>3. P5・P6にて、川の歴史について学び、川は物流の発達や水源の確保として、人々に多大な恵みをえたことを学ぶ。その一方で、氾濫をくりかえしてきたことも学ぶ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>主発問： 鈴鹿川沿いは、かつてどのように利用されていたのでしょうか。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0; color: blue;"> <p>・知らない、交通路（旧東海道） 等</p> </div>	<p>・多様な流れのおかげで、生きもののすみかや人々の河川利用があること学ぶ。</p>	
終末 (10分)	<p>4. 学習内容の振り返り、授業のまとめ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>主発問： 普段の川は、私たちにどのような恵みを与えてくれますか。 大雨が降ったときの川は、普段の川とどのような違いがあるのでしょうか？</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0; color: blue;"> <p>・普段：河川敷で遊べる、釣りができる、生き物が生息している 等 ・洪水時：川から水があふれてくる、家が水につかる、川の水がにごる 等</p> </div>	<p>・普段の川は、生き物や私たち人間に豊かな恵みを与えるが、大雨が降ると危険な状態になることを学ぶ。</p> <p>※川の危険な一面よりも川の良さを主に伝える。</p>	

2時限目 水害時におこる危険

本時のねらい（目標）

水害時におこる自分自身の危険を、具体的な写真から自由に想像し考えることを通じて、水害の危険性はわが事であることを理解する。

※指導計画の「 」は、予想される児童の発言（児童に伝えたい発言）を示す。

流れ	指導計画	指導上のポイント	コラム（もっと知ろう）
導入 (5分)	<p>1. P7にて、川は、堤防からあふれないように堤防がつくられているが、大雨が降ると堤防から水があふれることもあることを学ぶ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>発問： 大雨のときに川から水があふれないように堤防がつくられたことを学びました。堤防があるところからは、水はあふれてこないのでしょうか？</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px; color: blue;"> <p>・堤防をのりこえて水があふれることもある、堤防がこわれて水が流れてくる等</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・大雨が降ると堤防から水があふれ、命の危険があることを学ぶ。 	
展開 (30分)	<p>2. P8～P19にて、日本全国や、鈴鹿川で起こった大きな水害を学ぶ。</p> <p>3. 水害時に起こる危険を考えることで、その後の授業において「わたしたちがとるべき行動」を考える際の土台をつくる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>主発問：【P12 考えてみよう】 写真のような被害を受けると、どのような危険があるのでしょうか。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px; color: blue;"> <p>・水がにごっているので足元が見えない、溝が見えない、溝に足をとられて転倒する、おぼれる、土砂崩れで車が通れないので遠い所に行けない、高齢者の方が水の中を避難するのは冷たく足元が不確かなので危険、車が故障して動かなくなる 等</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・写真を中心に伊勢湾台風による被害を知り、水害で生活に影響を及ぼすこともあることを学ぶ。 ・川から氾濫すると、家や道路がつかかり、命の危険があることを学ぶ。 ・具体的なシチュエーションを想像して、危険性を考える。 (例：家から避難所まで歩くとき、高齢者の方と避難するとき、車を使用するとき) 	<p>大雨ってどんなとき？</p> <p>テレビ等でよく聞く「猛烈な雨」等の予報用語の意味をイラストとともに知る。</p> <p>水害ってどうやっておこるの？</p> <p>外水氾濫（川から水があふれてくること）と内水氾濫（まちに降った雨を川に排水できず、市街地が浸水すること）について知る。</p> <p>川の水位の上がり方</p> <p>川によっては、集中豪雨で急激に水位が上がる場合もあることを知る。</p>
終末 (10分)	<p>4. 学習内容の振り返り、授業のまとめ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>主発問： 水害がおこったときに私たちが困ることは何でしょうか。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px; color: blue;"> <p>・避難が遅れて浸水すると移動しづらい、車で買い物に行けない、浸水すると家の中が汚れる 等</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・水害が起こった時にとるべき行動を考えることができるように、「水害がおこるとわたしたちはどのような点で困るのか」を想像できるようにする。 	

3時限目 水害時にわたしたちがとるべき行動

本時のねらい（目標）

水害時におこる自分自身の危険を、順を追って理解することを通じて、水害時のとるべき行動を自ら考えることで、具体的な水害時に必要な行動を理解する。

※指導計画の「-----」は、予想される児童の発言（児童に伝えたい発言）を示す。

流れ	発問計画	指導上のポイント	コラム（もっと知ろう）
導入 (5分)	<p>1. P20～P22（あなたへの影響）にて、水害により生じる身の危険性を復習する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>発問：【P20 考えてみよう（前半部分）】 雨が降ってきたときに、周りの状況はどのように変化するでしょうか。そして、わたしたちにどのような影響があるでしょうか。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>・ <u>雨が強くなってきたとき</u> →足元が濡れる、高齢者の方や幼い子供は歩きづらい 等</p> <p>・ <u>傘をさしても濡れるほど雨が強いとき</u> →道路が水浸しになる、水路にたくさん水が流れる、浸水しはじめていたら足元が見えにくい、水路に足をとられると流される 等</p> <p>・ <u>水しぶきであたり一面が白っぽいつき</u> →前が見えづらいので避難をすると危険、堤防から水があふれてくると街中の水の深さが深くなる、おぼれたり流されたりする、家の中にいたらドアが開かず外に出られない 等</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 川から氾濫すると、家や道路がつかかり、命の危険があることを復習する。 ・ 雨が強くなっていくときを想像しながら意見を挙げていくことで、そのあとに考える「わたしたちの行動」について考えやすくする。 	
展開 (30分)	<p>2. P22（とるべき行動）にて、自分たちの身に危険があるときに、どのような行動をとるべきか考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>主発問：【P20 考えてみよう（後半部分）】 わたしたちがとるべき行動を考えてみましょう。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>・ <u>雨が強くなってきたとき</u> →テレビで天気予報・雨の様子を確認する、携帯電話などに避難情報が入っていないか確認する、家にいたら持ち出し品を準備しておく 等</p> <p>・ <u>傘をさしても濡れるほど雨が強いとき</u> →天気予報などを見ると雨が強くなりそうなので、逃げられなくなる前に安全な場所へ避難する 等</p> <p>・ <u>水しぶきであたり一面が白っぽいつき</u> →天気予報などを見ると雨が強くなりそうなので逃げられなくなる前に安全な場所へ避難する、水につかり始めていたら流されないように高い所へ移動する 等</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大雨の状況で、とるべき行動が変わってくることを学ぶ。 ・ 水害により身に危険があるときに、私たちがとるべき行動を考え、いざというときに行動できるようにする。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【体験型補助ツール①】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 卓上模型（マイクロモデル）を用いて洪水を体感する。 <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 洪水を視覚的に把握し、リスクをリアルに実感することで、回答を考える一助とする。 </div>	

流れ	発問計画	指導上のポイント	コラム（もっと知ろう）
	<p>3. P23～P26 にて、自分たちの身にどのような危険があるのかを知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>主発問： 水害がおこったときに、わたしたちの身の回りはどのような状況になるでしょうか。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>主発問：【P24 考えてみよう（手順①～⑤）】 ハザードマップを見ながら、身の回りの危険を確認しましょう。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>・学校（自宅）の周りの安全な場所 →学校は●階まで水につかるかもしれないが、○○に高台があるのでそこまで避難する、自宅周りは水につかり近くに高台もないので逃げられなくなる前に早めに○○へ避難する、自分の家は高台にあって水につからないが近所のおばあちゃんの家はつかるので大人と一緒に助けに行く等</p> </div>	<p>指導上のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・班ごとに机を一つにして、大判のハザードマップを見ながら「考えてみよう」の手順に沿って、身の回りの危険を確認する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【体験型補助ツール②】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手順①のあとに、AR（拡張現実）を活用して浸水を疑似体験し、ハザードマップに示された浸水する高さを実感する。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・身の回りの危険を確認した上で、万が一のときはどのように行動するかを考える。 	<p>コラム（もっと知ろう）</p> <p>ひなんについての情報</p> <p>テレビ等でよく聞く避難情報の名称とその意味を知り、避難をするタイミングの目安とする。</p> <p>「高齢者等避難」「避難指示」</p>
<p>終末 (10分)</p>	<p>4. 学習内容の振り返り、授業のまとめ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>主発問： 水害により身に危険があるときに、私たちがとるべき行動は？</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>・雨が強くなってきたらテレビ等で天気や川の様子に関する情報を得る、いつでも避難できるように準備しておく、避難するときは逃げられなくなる前に早めに避難する、水につかり始めて避難できないときは高い所へ移動する等</p> </div>		

4時限目 みんなでとりくむ水害へのそなえ

本時のねらい（目標）

前の授業で習った水害を起こさないために、鈴鹿川では様々な取り組み（川を掘ったり、水害に備えた訓練等）をしていることを理解する。そして、様々な人が関わりあって水害に対する備えをしており、私たちは「自分のいのちを守るために行動する」ことが重要であることを学ぶ。

※指導計画の「 」は、予想される児童の発言（児童に伝えたい発言）を示す。

流れ	発問計画	指導上のポイント	コラム（もっと知ろう）
導入 (10分)	<p>1. P27～P28にて、水害で困らないための様々な取り組みを考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>発問：【P27 考えてみよう】 水害による被害をおさえるために、どのような取り組みが行われているでしょうか。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>・川から水があふれないようにするには →堤防を作る、堤防を強くする、堤防が弱くなっていないか点検する、川にたまった土を掘る、ダムをつくる、防災訓練（水防訓練）をする等</p> <p>・大雨が降った時に身の回りではどのようなことが行われているか →テレビから雨の様子が伝わる、携帯電話から避難情報のアラームが鳴る、避難を呼びかける広報車が外を走っている 等</p> </div>	<p>・取り組みは1つでは無く、いろいろな取り組みがあることを知る。</p>	
展開 (25分)	<p>2. P29にて、水害で困らないために、いろいろな人たちが働いていて、私たち市民を含めてみんなで協力し合って命を守っていることを学ぶ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>主発問： 水害による被害をおさえるために行われている取り組みをまとめてみましょう。どういう人たちがいるでしょうか。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>・川を管理する人、天気を予想する人、避難情報を発令する人、情報を発信する人、地域を守る人、情報を受け取って避難する人（わたしたち）</p> </div> <p>3. P30～P31にて、わたしたちは、自分のいのちを守るため、事前に準備しておくこと・知っておくべきことを学ぶ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>主発問： わたしたちは、「自分のいのちを守る行動をとる」ことが大切だと学びました。それでは、水害が起こることを想定し、家族と一緒に事前に決めておくべきことを考えてみましょう。</p> </div>	<p>・導入で挙げられた意見をまとめながら、いろいろな人たちがお互いに関わりあっていることを学ぶ。 (P29の関係図)</p> <p>・家族と事前に決めておくべきことを学ぶ。</p> <p>・地域に高齢者の方や幼い子どもなど、一人で避難することが困難な災害弱者がいる場合は、避難の手助けをできるようにする。</p>	<p>持ち出し品の準備</p> <p>ひなんするときに注意すること</p>

流れ	発問計画	指導上のポイント	コラム（もっと知ろう）
	<p>・どこに避難するか、避難をした後にどこに集まるか、避難をするときに注意する場所（大きな水路があるところは避ける、道が狭い所は避ける等）、持ち出し品を準備しておく 等</p>		
<p>終末 (10分)</p>	<p>4. 学習内容の振り返り、授業のまとめ。</p> <div data-bbox="236 533 794 645" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>主発問： 水害が起こった時に、わたしたちがすべきことは何でしょうか。</p> </div> <p>・自分のいのちを守る行動、情報を確認する、早めに避難する、逃げ遅れたら高い所へ移動する 等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・水害が起こったときに、「行動」することの大切さを最後にもう一度伝える。 ・川に対して「恐怖」の感情が残らないように、1時限目の内容をおさらいしながら、川には良い所がたくさんあることを伝える。 ・将来、万が一、身の回りで水害が起こったとしても、今回学んだことを思い出して焦らずに行動してほしいことを伝える。 	

4

発問計画・学習教材【3時限の場合】

1 時限目(4 時限の場合の 1 時限目+2 時限目) わたしたちの鈴鹿川、水害時におこる危険

本時のねらい (目標)

児童たちの近くにある川が、さまざまに利用されていることを学び、川の恵みを知ったうえで、川は時として危険な状況になることを知る。また、水害がおこった場合、身の回りでどのような危険が生じるか児童自身が考える。

◆指導計画

※指導計画の「 」は、予想される児童の発言（児童に伝えたい発言）を示す。

流れ	指導計画	指導上のポイント	コラム (もっと知ろう)
導入 (5分)	1. P1・P2の地図を見て、自分たちのまちに流れる川のことを考えてもらう。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 発問：【P2 考えてみよう】 みなさんは、川に遊びに行ったことはありますか？わたしたちのまちには、どのような川が流れているのでしょうか。 </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> ・河川敷に公園、上流には溪谷（谷、滝）、釣り 等 </div>	・身近な川の流れを想像させる。	
展開① (15分)	2. P1・P2の地図を用いて、高畑山から伊勢湾までの水の流れを確認するとともに、P3・P4の写真を用いて、地形の特徴や川の利用について学ぶ。 (導入部分の答えを解説する。) 3. (時間に余裕がある場合) P5・P6にて、川の歴史について学び、川は物流の発達や水源の確保として、人々に多大な恵みを与えたことを学ぶ。その一方で、氾濫をくりかえしてきたことも学ぶ。	・多様な流れのおかげで、生きもののすみかや人々の河川利用があること学ぶ。 ※川の危険な一面よりも川の良さを主に伝える。	
展開② (15分)	4. P8～P19にて、日本全国や、鈴鹿川で起こった大きな水害を学ぶ。 水害時に起こる危険を考えることで、その後の授業において「わたしたちがとるべき行動」を考える際の土台をつくる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 主発問：【P12 考えてみよう】 写真のような被害を受けると、どのような危険があるのでしょうか。 </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> ・水がにごっているの足元が見えない、溝が見えない、溝に足をとられて転倒する、おぼれる、土砂崩れで車が通れないので遠い所に行けない、高齢者の方が水の中を避難するのは冷たく足元が不確かなので危険、車が故障して動かなくなる 等 </div>	・川から氾濫すると、家や道路がつかまり、命の危険があることを学ぶ。 ・具体的なシチュエーションを想像して、危険性を考える。 (例：家から避難所まで歩くとき、高齢者の方と避難するとき、車を使用するとき)	大雨ってどんなとき？ テレビ等でよく聞く「猛烈な雨」等の予報用語の意味をイラストとともに知る。 水害ってどうやっておこるの？ 外水氾濫（川から水があふれてくること）と内水氾濫（まちに降った雨が川に排水できず、市街地が浸水すること）について知る。

流れ	指導計画	指導上のポイント	コラム（もっと知ろう）
			<p>川の水位の上がり方 川によっては、集中豪雨で急激に水位が上がる場合もあることを知る。</p>
<p>終末 (10分)</p>	<p>5. 学習内容の振り返り、授業のまとめ。</p> <div data-bbox="236 544 793 640" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>主発問： 普段の川は、私たちにどのような恵みを与えてくれますか。</p> </div> <div data-bbox="236 678 793 813" style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>・ 普段：河川敷で遊べる、釣りができる、生き物が生息している 等 ・ 洪水時：川から水があふれてくる、家が水につかる、川の水がにごる 等</p> </div> <div data-bbox="236 887 793 992" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>主発問： 水害がおこったときに、私たちが困ることは何でしょうか。</p> </div> <div data-bbox="236 1030 793 1135" style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>・ 避難が遅れて浸水すると移動しづらい、車で買い物に行けない、浸水すると家の中が汚れる 等</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 普段の川は、生き物や私たち人間に豊かな恵みを与えていることを学ぶ。 ・ 水害が起こった時にとるべき行動を考えることができるように、「水害がおこるとわたしたちはどのような点で困るのか」を想像できるようにする。 	

2時限目(4時限の場合の3時限目と同じ) 水害時にわたしたちがとるべき行動

本時のねらい(目標)

水害時における自分自身の危険を、順を追って理解することを通じて、水害時のとるべき行動を自ら考えることで、具体的な水害時に必要な行動を理解する。

※指導計画の「-----」は、予想される児童の発言(児童に伝えたい発言)を示す。

流れ	発問計画	指導上のポイント	コラム(もっと知ろう)
導入 (5分)	<p>1. P20~P22(あなたへの影響)にて、水害により生じる身の危険性を復習する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>発問:【P20 考えてみよう(前半部分)】 雨が降ってきたときに、周りの状況はどのように変化するのでしょうか。そして、わたしたちにどのような影響があるのでしょうか。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>・雨が強くなってきたとき →足元が濡れる、高齢者の方や小さい子供は歩きづらい 等</p> <p>・傘をさしても濡れるほど雨が強いとき →道路が水浸しになる、水路にたくさん水が流れる、浸水しはじめていたら足元が見えにくい、水路に足をとられると流される 等</p> <p>・水しぶきであたり一面が白っぽいとき →前が見えづらいので避難をすると危険、堤防から水があふれてくると街中の水の深さが深くなる、おぼれたり流されたりする、家の中にいたらドアが開かず外に出られない 等</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・川から氾濫すると、家や道路がつかまり、命の危険があることを復習する。 ・雨が強くなっていくときを想像しながら意見を挙げていくことで、そのあとに考える「わたしたちの行動」について考えやすくする。 	
展開 (30分)	<p>2. P22(とるべき行動)にて、自分たちの身に危険があるときに、どのような行動をとるべきか考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>主発問:【P20 考えてみよう(後半部分)】 わたしたちがとるべき行動を考えてみましょう。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>・雨が強くなってきたとき →テレビで天気予報・雨の様子を確認する、携帯電話などに避難情報が入っていないか確認する、家にいたら持ち出し品を準備しておく 等</p> <p>・傘をさしても濡れるほど雨が強いとき →天気予報などを見ると雨が強くなりそうなので、逃げられなくなる前に安全な場所へ避難する 等</p> <p>・水しぶきであたり一面が白っぽいとき →天気予報などを見ると雨が強くなりそうなので逃げられなくなる前に安全な場所へ避難する、水につかり始めていたら流されないように高い所へ移動する 等</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・大雨の状況で、とるべき行動が変わってくることを学ぶ。 ・水害により身に危険があるときに、私たちがとるべき行動を考え、いざというときに行動できるようにする。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【体験型補助ツール①】 ・卓上模型(マイクロモデル)を用いて洪水を体感する。 ↓ ・洪水を視覚的に把握し、リスクをリアルに実感することで、回答を考える一助とする。</p> </div>	

流れ	発問計画	指導上のポイント	コラム（もっと知ろう）
	<p>3. P23～P26 にて、自分たちの身にどのような危険があるのかを知る。</p> <div data-bbox="237 371 794 510" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>主発問： 水害がおこったときに、わたしたちの身の回りはどのような状況になるでしょうか。</p> </div> <div data-bbox="237 551 794 685" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>主発問：【P24 考えてみよう （手順①～⑤）】 ハザードマップを見ながら、身の回りの危険を確認しましょう。</p> </div> <div data-bbox="237 719 794 1032" style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>・学校（自宅）の周りの安全な場所 →学校は●階まで水につかるかもしれないが、○○に高台があるのでそこまで避難する、自宅周りは水につかり近くに高台もないので逃げられなくなる前に早めに○○へ避難する、自分の家は高台にあって水につからないが近所のおばあちゃんの家はつかるので大人と一緒に助けに行く等</p> </div>	<p>・班ごとに机を一つにして、大判のハザードマップを見ながら「考えてみよう」の手順に沿って、身の回りの危険を確認する。</p> <div data-bbox="831 763 1142 1032" style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>【体験型補助ツール②】 ・手順①のあとに、AR（拡張現実）を活用して浸水を疑似体験し、ハザードマップに示された浸水する高さを実感する。</p> </div> <p>・身の回りの危険を確認した上で、万が一のときはどのように行動するかを考える。</p>	<p>ひなんについての情報</p> <p>テレビ等でよく聞く避難情報の名称とその意味を知り、避難をするタイミングの目安とする。</p> <p>「高齢者等避難」「避難指示」</p>
<p>終末 (10分)</p>	<p>4. 学習内容の振り返り、授業のまとめ。</p> <div data-bbox="237 1317 794 1424" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>主発問： 水害により身に危険があるときに、私たちがとるべき行動は？</p> </div> <div data-bbox="237 1458 794 1693" style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>・雨が強くなってきたらテレビ等で天気や川の様子に関する情報を得る、いつでも避難できるように準備しておく、避難するときは逃げられなくなる前に早めに避難する、水につかり始めて避難できないときは高い所へ移動する等</p> </div>		

3時限目(4時限の場合の4時限目と同じ) みんなでとりくむ水害へのそなえ

本時のねらい(目標)

前の授業で習った水害を起こさないために、櫛田川では様々な取り組み(川を掘ったり、水害に備えた訓練等)をしていることを理解する。そして、様々な人が関わりあって水害に対する備えをしており、私たちは「自分のいのちを守るために行動する」ことが重要であることを学ぶ。

※指導計画の「 」は、予想される児童の発言(児童に伝えたい発言)を示す。

流れ	発問計画	指導上のポイント	コラム(もっと知ろう)
導入 (10分)	<p>1. P27~P28にて、水害で困らないための様々な取り組みを考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>発問:【P27 考えてみよう】 水害による被害をおさえるために、どのような取り組みが行われているでしょうか。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>・川から水があふれないようにするには →堤防を作る、堤防を強くする、堤防が弱くなっていないか点検する、川にたまった土を掘る、ダムをつくる、防災訓練(水防訓練)をする等 ・大雨が降った時に身の回りではどのようなことが行われているか →テレビから雨の様子が伝わる、携帯電話から避難情報のアラームが鳴る、避難を呼びかける広報車が外を走っている等</p> </div>	<p>・取り組みは1つでは無く、いろいろな取り組みがあることを知る。</p>	
展開 (25分)	<p>2. P29にて、水害で困らないために、いろいろな人たちが働いていて、私たち市民を含めてみんなで協力し合って命を守っていることを学ぶ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>主発問: 水害による被害をおさえるために行われている取り組みをまとめてみましょう。どういう人たちがいるでしょうか。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>・川を管理する人、天気を予想する人、避難情報を発令する人、情報を発信する人、地域を守る人、情報を受け取って避難する人(わたしたち)</p> </div> <p>3. P30~P31にて、わたしたちは、自分のいのちを守るため、事前に準備しておくこと・知っておくべきことを学ぶ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>主発問: わたしたちは、「自分のいのちを守る行動をとる」ことが大切だと学びました。それでは、水害が起こることを想定し、家族と一緒に事前に決めておくべきことを考えてみましょう。</p> </div>	<p>・導入で挙げられた意見をまとめながら、いろいろな人たちがお互いに関わりあっていることを学ぶ。 (P29の関係図)</p> <p>・家族と事前に決めておくべきことを学ぶ。 ・地域に高齢者の方や幼い子どもなど、一人で避難をすることが困難な災害弱者がいる場合は、避難の手助けをできるようにする。</p>	<p>持ち出し品の準備</p> <p>ひなんするときの注意事項</p>

流れ	発問計画	指導上のポイント	コラム（もっと知ろう）
	<p>・どこに避難するか、避難をした後にどこに集まるか、避難をするときに注意する場所（大きな水路があるところは避ける、道が狭い所は避ける等）、持ち出し品を準備しておく 等</p>		
<p>終末 (10分)</p>	<p>4. 学習内容の振り返り、授業のまとめ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>主発問： 水害が起こった時に、わたしたちがすべきことは何でしょうか。</p> </div> <p>・自分のいのちを守る行動、情報を確認する、早めに避難する、逃げ遅れたら高い所へ移動する 等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・水害が起こったときに、「行動」することの大切さを最後にもう一度伝える。 ・川に対して「恐怖」の感情が残らないように、1時限目の内容をおさらいしながら、川には良い所がたくさんあることを伝える。 ・将来、万が一、身の回りで水害が起こったとしても、今回学んだことを思い出して焦らずに行動してほしいことを伝える。 	

5 発問計画・学習教材【2時限の場合】

1 時限目(4 時限の場合の 1 時限目+2 時限目) わたしたちの鈴鹿川、水害時におこる危険

本時のねらい(目標)

児童たちの近くにある川が、さまざまに利用されていることを学び、川の恵みを知ったうえで、川は時として危険な状況になることを知る。また、水害がおこった場合、身の回りでどのような危険が生じるか児童自身が考える。

◆指導計画

※指導計画の「-----」は、予想される児童の発言(児童に伝えたい発言)を示す。

流れ	指導計画	指導上のポイント	コラム(もっと知ろう)
導入 (5分)	<p>1. P1・P2の地図を見て、自分たちのまちに流れる川のことを考えてもらう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>発問:【P2 考えてみよう】 みなさんは、川に遊びに行ったことはありますか?わたしたちのまちには、どのような川が流れているのでしょうか。</p> </div> <p>----- ・釣り、お花見、バルーンフェスティバル 等</p>	<p>・身近な川の流れを想像させる。</p>	
展開① (15分)	<p>2. P1・P2の地図を用いて、高畑山から伊勢湾までの水の流れを確認するとともに、P3・P4の写真を用いて、地形の特徴や川の利用について学ぶ。 (導入部分の答えを解説する。)</p> <p>3. (時間に余裕がある場合) P5・P6にて、川の歴史について学び、川は物流の発達や水源の確保として、人々に多大な恵みを与えたことを学ぶ。その一方で、氾濫をくりかえしてきたことも学ぶ。</p>	<p>・多様な流れのおかげで、生きもののすみかや人々の河川利用があること学ぶ。</p> <p>※川の危険な一面よりも川の良さを主に伝える。</p>	
展開② (15分)	<p>4. P8~P19にて、日本全国や、鈴鹿川で起こった大きな水害を学ぶ。</p> <p>水害時に起こる危険を考えることで、その後の授業において「わたしたちがとるべき行動」を考える際の土台をつくる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>主発問:【P12 考えてみよう】 写真のような被害を受けると、どのような危険があるのでしょうか。</p> </div> <p>----- ・水がにごっているので足元が見えない、溝が見えない、溝に足をとられて転倒する、おぼれる、土砂崩れで車が通れないので遠い所に行けない、高齢者の方が水の中を避難するのは冷たく足元が不確かなので危険、車が故障して動かなくなる 等</p>	<p>・川から氾濫すると、家や道路がつかまり、命の危険があることを学ぶ。</p> <p>・具体的なシチュエーションを想像して、危険性を考える。 (例:家から避難所まで歩くとき、高齢者の方と避難するとき、車を使用するとき)</p>	<p>大雨ってどんなとき?</p> <p>テレビ等でよく聞く「猛烈な雨」等の予報用語の意味をイラストとともに知る。</p> <p>水害ってどうやっておこるの?</p> <p>外水氾濫(川から水があふれてくること)と内水氾濫(まちに降った雨が川に排水できず、市街地が浸水すること)について知る。</p>

流れ	指導計画	指導上のポイント	コラム（もっと知ろう）
			<p>川の水位の上がり方 川によっては、集中豪雨で急激に水位が上がる場合もあることを知る。</p>
<p>終末 (10分)</p>	<p>5. 学習内容の振り返り、授業のまとめ。</p> <div data-bbox="236 544 793 640" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>主発問： 普段の川は、私たちにどのような恵みを与えてくれますか。</p> </div> <div data-bbox="236 678 793 813" style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>・ 普段：河川敷で遊べる、釣りができる、生き物が生息している 等 ・ 洪水時：川から水があふれてくる、家が水につかる、川の水がにごる 等</p> </div> <div data-bbox="236 887 793 992" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>主発問： 水害がおこったときに、私たちが困ることは何でしょうか。</p> </div> <div data-bbox="236 1030 793 1135" style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>・ 避難が遅れて浸水すると移動しづらい、車で買い物に行けない、浸水すると家の中が汚れる 等</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 普段の川は、生き物や私たち人間に豊かな恵みを与えていることを学ぶ。 ・ 水害が起こった時にとるべき行動を考えることができるように、「水害がおこるとわたしたちはどのような点で困るのか」を想像できるようにする。 	

2時限目(4時限の場合の3時限目と同じ) 水害時にわたしたちがとるべき行動

本時のねらい(目標)

水害時におこる自分自身の危険を、順を追って理解することを通じて、水害時のとるべき行動を自ら考えることで、具体的な水害時に必要な行動を理解する。

※指導計画の「 」は、予想される児童の発言(児童に伝えたい発言)を示す。

流れ	発問計画	指導上のポイント	コラム(もっと知ろう)
導入 (5分)	<p>1. P20~P22(あなたへの影響)にて、水害により生じる身の危険性を復習する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>発問:【P20 考えてみよう(前半部分)】 雨が降ってきたときに、周りの状況はどのように変化するでしょうか。そして、わたしたちにどのような影響があるでしょうか。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・雨が強くなってきたとき →足元が濡れる、高齢者の方や幼い子供は歩きづらい 等 ・傘をさしても濡れるほど雨が強いとき →道路が水浸しになる、水路にたくさん水が流れる、浸水しはじめていたら足元が見えにくい、水路に足をとられると流される 等 ・水しぶきであたり一面が白っぽいとき →前が見えづらいので避難をすると危険、堤防から水があふれてくると街中の水の深さが深くなる、おぼれたり流されたりする、家の中にいたらドアが開かず外に出られない 等 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・川から氾濫すると、家や道路がつかまり、命の危険があることを復習する。 ・雨が強くなっていくときを想像しながら意見を挙げていくことで、そのあとに考える「わたしたちの行動」について考えやすくする。 	
展開 (30分)	<p>2. P22(とるべき行動)にて、自分たちの身に危険があるときに、どのような行動をとるべきか考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>主発問:【P20 考えてみよう(後半部分)】 わたしたちがとるべき行動を考えてみましょう。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・雨が強くなってきたとき →テレビで天気予報・雨の様子を確認する、携帯電話などに避難情報が入っていないか確認する、家にいたら持ち出し品を準備しておく 等 ・傘をさしても濡れるほど雨が強いとき →天気予報などを見ると雨が強くなりそうなので、逃げられなくなる前に安全な場所へ避難する 等 ・水しぶきであたり一面が白っぽいとき →天気予報などを見ると雨が強くなりそうなので逃げられなくなる前に安全な場所へ避難する、水につかり始めていたら流されないように高い所へ移動する 等 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・大雨の状況で、とるべき行動が変わってくることを学ぶ。 ・水害により身に危険があるときに、私たちがとるべき行動を考え、いざというときに行動できるようにする。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【体験型補助ツール①】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卓上模型(マイクロモデル)を用いて洪水を体感する。 <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・洪水を視覚的に把握し、リスクをリアルに実感することで、回答を考える一助とする。 </div>	

流れ	発問計画	指導上のポイント	コラム（もっと知ろう）
	<p>3. P23～P26 にて、自分たちの身にどのような危険があるのかを知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>主発問： 水害がおこったときに、わたしたちの身の回りはどのような状況になるでしょうか。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>主発問：【P24 考えてみよう （手順①～⑤）】 ハザードマップを見ながら、身の回りの危険を確認しましょう。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>・学校（自宅）の周りの安全な場所 →学校は●階まで水につかるかもしれないが、○○に高台があるのでそこまで避難する、自宅周りは水につかり近くに高台もないので逃げられなくなる前に早めに○○へ避難する、自分の家は高台にあって水につからないが近所のおばあちゃんの家はつかるので大人と一緒に助けに行く等</p> </div>	<p>指導上のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・班ごとに机を一つにして、大判のハザードマップを見ながら「考えてみよう」の手順に沿って、身の回りの危険を確認する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【体験型補助ツール②】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手順①のあとに、AR（拡張現実）を活用して浸水を疑似体験し、ハザードマップに示された浸水する高さを実感する。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・身の回りの危険を確認した上で、万が一のときはどのように行動するかを考える。 	<p>コラム（もっと知ろう）</p> <p>ひなんについての情報</p> <p>テレビ等でよく聞く避難情報の名称とその意味を知り、避難をするタイミングの目安とする。</p> <p>「高齢者等避難」「避難指示」</p>
<p>終末 (10分)</p>	<p>4. 学習内容の振り返り、授業のまとめ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>主発問： 水害により身に危険があるときに、私たちがとるべき行動は？</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>・雨が強くなってきたらテレビ等で天気や川の様子に関する情報を得る、いつでも避難できるように準備しておく、避難するときは逃げられなくなる前に早めに避難する、水につかり始めて避難できないときは高い所へ移動する等</p> </div>		